

■ 2022年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

教育学部

科目

国語（現代文）

試験時間	90分	満点(配点)	50点	出題数	現代文2題、古文1題、漢文1題			
総括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	

〈総論〉

本文の分量は、(一)が昨年の約3700字から約4800字へと大幅に増加し、(二)も約3000字から約3600字へと増加しており、全体として約1700字増加した。全体の設問数は昨年と同じであるが、一昨年まで記述式であった漢字の書き取りが昨年同様選択式であり、記述式の空欄補充も抜き出し設問も昨年同様見られなかった。

(一)も(二)も評論で、七年連続評論二題の出題。本文は(一)が昨年度より読みにくく、(二)が例年並みであることから、本文全体は昨年度に比して取り組みにくいものだったと言える。設問も、(一)(二)ともに正解を決めにくい選択式の設問がいくつか見られたため、受験生を悩ませたのではないかと思われる。(一)はフーコーの生政治を、(二)は近代における神の問題を扱っていて、「近現代」に焦点を当てた出題である点は例年通りであった。

〈合格への学習対策〉

現代社会の抱える問題点や文明・文化に関するさまざまなテーマを扱った評論に数多く触れておきたい。設問は小手先の技術で解けるものではなく、本文の論旨への正確な理解を求めるものなので、ある程度抽象度の高い書物や新聞の文章に普段から目を通し、論旨をたどる訓練を積むことが大切であろう。融合文がかつて出題されていたことを顧慮し、古文や漢文、詩などに関して説明する文章を読むことも対策になる。

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
(一)	評論(哲学)	重田園江『フーコーの風向き』(2020年 青土社)〈第2章「生のポリテイクス」と新しい権利〉の一節。	フーコーの生政治と社会統計学の関わりについて論じた文章。	難
(二)	評論(社会)	佐藤弘夫『日本人と神』(2021年 講談社現代新書)〈終章 神のゆくえ〉の一節。	近代における神の必要性について論じた文章。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
(一)	問一	選択(内容把握)	前段落の最後を読み取る。ホが誤りと言えるかは疑問。	やや難
	問二	選択(理由説明)	同段落の内容に着目する。	標準
	問三	選択(内容把握)	第六段落の内容を読み取る。ハとニの違いは不明瞭。	標準
	問四	選択(理由説明)	次段落の内容に着目する。ニが誤りと言えるかは疑問。	標準
	問五	選択(空欄補充)	「平均人」から判断する。	やや易
	問六	選択(内容把握)	同段落および次段落の内容に着目する。	標準
	問七	選択(理由説明)	前段落の内容から判断する。	やや難
	問八	選択(空欄補充)	空欄の直前に着目する。	標準
(二)	問九	選択(書き取り)	受験生には馴染みのない言葉が見られる。	やや難
	問十	選択(理由説明)	第三～五段落および第十段落の内容から判断する。	標準
	問十一	選択(空欄補充)	〈生者と死者の交流〉との対比。	標準
	問十二	選択(理由説明)	ニの解答根拠は疑問である。	—
	問十三	選択(空欄補充)	引用部の内容から判断する。	やや難
	問十四	選択(空欄補充)	三段落後に「神や仏や死者を追放する」とある。	やや易
	問十五	選択(理由説明)	前段落および同段落の内容から判断。ハ・ニは後半が誤り。	やや難
	問十六	選択(理由説明)	本文後半の趣旨を捉える。	標準
	問十七	選択(趣旨把握)	大学側から「解なし」と発表された。	—

「本文のレベル」と「設問のレベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2022年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

教育学部

科目

国語(古文)

試験時間	90分	満点(配点)	50点	出題数	現代文2題、古文1題、漢文1題			
総括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	
<p>〈総論〉 『夜の寝覚』からの出題。問題本文の長さは、約1200字で、昨年(約1900字)より大きく減少した。設問数は11、解答数は14で、設問数は昨年と同じだが解答数は昨年の16から減少した。昨年と同様、記述形式の設問は出題されず、すべて選択式の設問だった。昨年は和歌を含まない文章から出題されたが、今年は昨年と異なり和歌を含む文章から出題された。また、昨年と同様に文学史問題が出題された。</p> <p>〈合格への学習対策〉 特定の分野に偏ることなく、文法の基礎から古文常識まで、古文学習のすべての領域を備えておくことが重要である。和歌に関わる設問もよく出題されるので、これらに対応できる知識・読解力が必要である。記述の解釈問題は出題されていないものの選択式での出題は続いているので、正確な解釈力が求められていることは依然として変わらない。</p>								

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
(三)	作り物語	『夜の寝覚』(未詳)	本年は平安時代の作り物語からの出題。大納言と中君はかつて一夜の契りを交わし、その結果中君は懐妊し姫君を出産する。その姫君は大納言の父の関白邸に引き取られて育てられているが、その姫君のことを大納言の妻である大君が知る(なお、大君は、夫である大納言の契った相手が自分の妹である中君とはまだ知らない)という場面から本文は始まっているが、場面の説明がほとんどないので、本文の読解には非常に苦労する。	難

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
(三)	問十八	選択	空欄補充。Aは直前の「恨めしく」に合わせて、Bは手紙の返事を書くように勧められた中君が返信を憚っている様子から考える。	標準
	問十九	選択	文法(敬意の対象)。aは尊敬語で、主体は大納言、bは謙譲語で、客体はあなた(=大君)、cは尊敬語で、主体は庭の撫子の花を見ていた中君。	やや難
	問二十	選択	主体判定。②のみが大納言で、その他は大君。	標準
	問二十一	選択	傍線部解釈。「さしてそのこととなき」とは、夫である大納言との結婚生活に何となく違和感を抱いていた大君であったが、「特にこれとってその原因となる事実がない」ということ。	標準
	問二十二	選択	語句の意味。どちらも基本語彙。Iは、大君の様子を見て「どうしようもなく困る」ということ。	やや易

■ 2022年度 入試問題分析シート ■

問二十三	選択	傍線部解釈。敬語の解釈（「おぼし咎む」）に難点があり、正解を選ぶ判断が難しい。	難
問二十四	選択	語句の意味。「なほなほし」（=平凡だ）は、ここでは「身分的に平凡=身分が低い」の意となる。その対義語を探す。	やや難
問二十五	選択	傍線部解釈。「せ」は使役。「大君が人に命じて夫が愛している女性を探させなさる」という意。	標準
問二十六	選択	和歌の修辞（掛詞）。「なでしこ」が、花の名と「撫でし子」の掛詞。	標準
問二十七	選択	文法（「なり」の識別）。傍線部は断定の助動詞。口は動詞の「なる」。	やや易
問二十八	選択	文学史。『夜の寝覚』と同じく、菅原孝標女を作者とする説がある。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。

■ 2022年度 入試問題分析シート ■

早稲田大学

教育学部

科目

国語(漢文)

試験時間	90分	満点(配点)	50点	出題数	現代文2題、古文1題、漢文1題			
総括				難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化	
				分量(昨年比)	増加	昨年並	減少	
<p>〈総論〉 漢文独立の問題として出題された。本文字数は244字。昨年より多い字数であり、かなりの長文であった。書き下し文・返り点・解釈・内容把握など標準的な出題形態であった。昨年度は出題されなかった書き下し文の問題が選択式で出題された。また、今年度は昨年度に続き記述の問題は出題されず、すべて選択式であった。</p> <p>〈合格への学習対策〉 現代文や古文との融合問題として出題されることが多いが、漢文の学力をしっかりと鍛えておけばよい。基本的な語法、基本的な語彙力を習得し、白文でも読解できる力が求められる。また、現代日本語の語彙力が四字熟語などの形で試されることもあるので注意。漢詩が出題されることもあるので、漢詩の学習も怠らないこと。</p>								

問題分析(本文)

問題番号	類別(ジャンル)	出典(著者)	コメント(特徴・出題頻度など)	本文のレベル
(四)	論説	「稼説」(蘇軾)	蘇軾の文章はしばしば出題されるが「稼説」は稀。	標準

設問分析

問題番号	設問番号	設問形式	設問内容(特徴・解答上のポイントなど)	設問のレベル
(四)	問二十九	選択	書き下し文。再読文字「盍」、文末の「乎」を含む。	標準
	問三十	選択	内容把握。返り点のみ施されている。句形「可～」「得～」、重要語「更」を含む。	標準
	問三十一	選択	内容説明。対比を捉える。	標準
	問三十二	選択	返り点。意味を与えて返り点を問う。	標準
	問三十三	選択	内容把握。空欄補充の形で問う。対句に着眼。	標準
	問三十四	選択	内容把握。本文全体の内容を問う。二つ選択する。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階【難・やや難・標準・やや易・易】で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。